

振興計画体系					令和4年度 事業費(千円)					前年度比	実施状況	成果	課題	今後の方向性		
					総合戦略体系	事業名	事業目的	事業内容	国県支出金						その他特定財源	一般財源(志基金含む)
5	1	1	3	5	特別支援教育推進事業	特別な支援を必要とする児童生徒を把握し、適正な就学指導を行えるようにする。	特別な支援を必要とする児童生徒に関する指導ならびに適正な就学指導に関する事務等を行う。			215	215	106	就学指導委員会の開催や、教育相談の実施、就学事務を行った。	児童生徒のニーズに応じた教育が展開されるよう支援員の増や特別支援学級の適切な設置が行えた。	就学前の就学相談の充実を更に高める必要がある。	現状維持
5	1	1	3	5	作品審査会事業	審査会を通じて、地区や県への推薦作品を審査するとともに、審査員である教職員の指導力向上に寄与する。	各種審査会の開催、審査会への講師派遣、賞状の作成と配布を行う。			66	66	122	図画作品、理科作品、作文等の審査を実施した。	市の作品審査会を通して指導力向上に資することができた。今後も県の審査会に準じて実施していく。		現状維持
5	1	1	3	5	スクールカウンセラー配置事業	不登校をはじめとする生徒指導上の諸問題の解決を図る。	生徒指導対応能力を育成するための教職員に対する助言・援助、また生徒・保護者への直接的助言・援助を行う。			95	95	100	スクールカウンセラーによる面談等を行った。	一人一人の児童生徒の深い生徒理解を進め、不登校やいじめ問題に対応した。	対応しなければならない児童生徒が増えつつあり、きめ細やかなカウンセラーが更に必要になってきている。	現状維持
5	1	1	3	5	自立支援事業	不登校の児童及び生徒の早期発見及び早期対応をはじめ、より一層きめ細かな支援を行う。	ふれあい教室の運営やSSWの活用を行う。			419	419	100	ふれあい教室「松風」(適応指導教室)で、午前中の学習時間、午後からの運動の時間等、規則的な生活リズムを身に付けさせる等の個別支援を実施した。SSW	不登校で家からも出ない児童生徒が少しでも家から出ることができるようになる児童生徒もいる。高校へも進学出来た生徒もいる。関係機関との連携を図れている。		現状維持
5	1	1	3	5	小・中学校音楽発表会事業	学校生活の中で、音楽を通じ、音楽の素晴らしさ、学級や学年単位での協調性を育む。	年に1回、小・中学校音楽発表会を実施する。			80	80	80	年に1回、小・中学校音楽発表会を実施する。	市内の児童生徒の発表の場を提供することで、音楽に対する意欲を高めることが出来るとともに、協調性を育むことが出来ている。	楽器運搬や児童生徒の搬送の時間をいかに効率的に行うか課題である。	現状維持
5	1	1	3	5	地域ぐるみ学校安全体制推進事業	学校管理下における児童生徒の安全を守る。	校内の安全に関する指導、交通安全に関する指導(通学路点検と危険箇所の整備)、学校安全に関する事故報告等の実施。			527	527	106	児童生徒の登下校中のスクールガードによる見守り等の実施。通学路の危険箇所チェック等の実施。	地域住民、PTA、交通安全協会などスクールガードによる交通安全指導など、地域一体となって児童生徒の安全を守るようになってきた。		現状維持
5	1	1	3	5	教育相談員配置事業	知的障害や情緒障害がある児童生徒に対して適切な就学指導や学習支援を行う。	小・中学校の特別支援教育に関する事例の相談や個別の発達・心理検査を行い、各学校や児童生徒への説明等を行う。			960	960	100	幼・保、小・中連携し、児童生徒の実態に関する情報を収集する。また、必要に応じて各教育施設と連携し、特別支援教育を始めとする相談業務を行っている。	これまで通り関係機関と連携を図りながら、相談活動等の内容を充実させるよう努力したい。		現状維持
											0					
											0					
											0					